

第5章 リーディングプロジェクト

北茨城市の環境将来像である「～小さな手 大きな手 つないで守る 北茨城の豊かな自然～」を実現するためには、市内に居住する人、市内で働く人、市内を訪れる人が、北茨城市の環境のみならず、地球環境のことを考えて行動していくことが必要です。

リーディングプロジェクトとは、本計画を推進していく中で、全体を先導していく施策、すなわち、最も優先的に行うことで全体の取組を促進する施策として位置づけ、推進していくものです。

リーディングプロジェクトには、取組の効果を数値で確認・評価するために、環境指標を設定しました。環境指標を定期的に点検し、施策の取組内容の見直しなどに反映させていきます。

1 「みんなが主役の環境フェア」プロジェクト

地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた小さな取組から大きな取組まで、誰もが「伝える立場」と「知る立場」で参加できる、みんなが主役の環境フェアを開催し、環境意識の向上と環境活動の促進を図ります。

2 「自然を楽しむまちづくり」プロジェクト

本市の豊かな自然を守るための重要な課題である山林や海岸林の整備、清掃・除草活動を推進し、自然の機能回復と良好な自然景観の維持を図るとともに、自然環境に関し情報の一元化と啓発に努め、自然にふれあい楽しめるまちづくりを進めます。

3 「つなげよう！エコドライブ」プロジェクト

エコドライブに取り組むためのセミナーを開催し、セミナー受講者が認定講師となって地域や職場でミニセミナーを開催することで、エコドライブの認知度の向上と実践者の増加を図ります。

4 「ごみを減らそう！とことんリデュース」プロジェクト

マイバッグ持参や簡易包装の徹底、生ごみや廃食用油、落ち葉、剪定枝などの有効利用を推進し、ごみの排出量を減らします。

5 「再生可能エネルギー利用拡大」プロジェクト

地域特性を活かした再生可能エネルギーの普及を図るとともに、省エネルギーとエネルギーマネジメントをさらに促進し、CO₂の削減と持続可能なエネルギーの利用拡大を進めます。

1 「みんなが主役の環境フェア」プロジェクト

1.1 目的

地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた小さな取組から大きな取組まで、誰もが「伝える立場」と「知る立場」で参加できる、みんなが主役の環境フェアを開催し、環境意識の向上と環境活動の促進を図ります。

1.2 現状

- 多くの市民は環境に関心はあるものの、環境に関する情報や環境保全に向けた具体的対策や支援内容に関する情報の不足から、環境行動のステップアップが見られない状況にあると考えられます。

<市民の声> ～環境意識調査結果より～

- 市民環境まつりを開いて環境への意識向上を図るべき。(30代男性)
- 一人ひとりの意識に差があるので、環境問題の講演会などで広くPRする必要があると思う。(50代男性)
- 環境問題に対して意識を高めるきっかけ作りとなるようなイベントを行ってほしい。(50代女性)
- 地域レベルの環境問題の実情についての情報が少なく、問題点を把握しにくい。実態認識と環境保全のPRができないか。(70代男性)

1.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- 出展者も来場者も3Rに努めた環境フェアにします。
- 来場者も主役になれる参加型のイベントを多くします。

(2) 内容

- 地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた取組の発表
- 環境白書の公表、環境に関する市の事業の紹介
- 市の自然・歴史・文化の紹介
- 市民団体や茨城県地球温暖化防止活動推進員による環境に関する啓発
- エコカーや太陽光発電システムなど環境性能の高い商品の紹介
- 地産地消グルメ（地元の農水産物等）の販売
- 間伐材を利用した工作教室 など

1.4 プロジェクトの効果

- 環境問題の課題について、市民の関心と理解度が向上します。
- 北茨城市環境基本計画や市の環境への取組について認知度が向上します。
- 市民や事業者の環境意識が向上し、環境保全に向けた取組が活発になります。

- ・地域や学校、企業などで協働による環境活動が活発になります。
- ・環境フェアに、伝える立場としての参加者が増加します。

1.5 環境指標

環境指標	現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
環境フェアの来場者数	—	1,000 人	2,000 人
現状：市民や事業者の環境意識の向上と環境活動の促進を図る総合的な場がない。 目標：誰もが主役になれる環境フェアを開催し、回を重ねる度に来場者数の増加を目指す。			
環境保全取組事例公表件数（累積）	—	25 件	50 件
現状：環境保全に関する取組事例を公表する場を設けていない。 目標：市民や市民団体、学校、事業所等で実施している取組を募集し、環境フェアをはじめ、市の広報紙、公共施設等で公表する件数について毎年 5 件の増加を目指す。			
環境保全に対する市民の意識の高さに対する満足度	18.1%	31.4%	44.6%
※市民アンケートによる満足度（「満足」＋「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：市の環境の現状評価で、14 項目中、最も満足度が低い環境要素。 目標：「どちらとも言えない」と回答した割合（53.0%）の 1/2 が現状値に移行することを目指す。			
環境について家族や友達と話し合っている割合	13.9%	25.2%	36.4%
※中学生アンケートによる取組状況（「している」と回答した割合）を対象。 現状：ふだんの生活の中の環境に関する取組 11 項目中、最も実施率の低い取組。 目標：「今はしていないがこれからはしたい」と回答した割合（22.5%）が現状値に移行することを目指す。			
地域の環境保全活動への支援・参加をしている事業者の割合	42.1%	61.4%	80.7%
※事業者アンケートによる取組状況（「現在実施している」と回答した割合）を対象。 現状：環境問題改善に関する取組 20 項目中、6 番目に高い取組。 目標：「今後はしてみたい」と回答した割合（38.6%）が現状値に移行することを目指す。			

2 「自然を楽しむまちづくり」プロジェクト

2.1 目的

森林整備、清掃・除草などを強化し、自然の機能回復と良好な自然景観の維持を図ります。また、自然環境に関し、情報の一元化と啓発を強化することで、自然にふれあう機会の拡充を推進します。

2.2 現状

- ・山林は荒廃が進み、海岸林では松くい虫による松林の立ち枯れがみられます。
- ・ごみのポイ捨てや雑草の繁茂で自然景観の悪化及び生態系への悪影響が懸念されます。
- ・生活排水の未処理人口が多いため、河川の水質や景観を害しています。
- ・豊かな自然に恵まれていますが、市民が自然にふれあう機会は減少してきています。

〈市民の声〉 ～環境意識調査結果より～

- ・もっと自然とふれあえるような、伝統を守っていける落ち着いたまちであってほしい。（中学2年生）
- ・自然の大切さを教えるところを作ってほしい。（中学2年生）
- ・子どもたちには、あまり人工的な場所ではなく、ありのままの自然にふれさせたい。（20代女性）
- ・大北川をごみの不法投棄がない、河川敷にアシの発生が少ない、誰もが水辺に近づける川に再生できないか。（70代男性）
- ・国道の両脇の草など、ごみも含め気になります。（70代女性）

2.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・生態系に配慮した取組を進めます。
- ・市・市民・事業者の協働による取組を広げます。

(2) 内容

- ・花園神社周辺の自然林や海岸林の整備の推進
- ・清掃活動や除草活動の推進
- ・河川のさらなる水質向上対策の推進
- ・自然環境に関する情報提供の強化と啓発活動の推進
- ・自然観察会、自然体験の推進

2.4 プロジェクトの効果

- ・身近な自然林が整備され自然の機能と良好な景観が保たれます。
- ・地域の清掃及び除草活動が活発になり、ごみのポイ捨ても少なくなります。
- ・生活排水処理率が向上し、生活排水の垂れ流しが減少します。
- ・自然環境保全に関する啓発活動や自然に親しむ活動が活発になります。

2.5 環境指標

環境指標		現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
山林や海岸林等の 整備面積	山林	378.9ha	628.9ha	878.9ha
	平地林等	0.8ha	5.8ha	10.8ha
	松林	50ha	50ha	50ha
<p>現状：山林については、県や北茨城市森林組合など関係機関と連携し、間伐を実施している。 平地林や里山林については、緑空間として利用されていない。 海岸沿いなどの松林については、松くい虫被害予防散布を毎年約 50ha 実施している。</p> <p>目標：山林は年間 50ha の間伐、平地林等は年間 1ha の整備、松林は年間 50ha について松くい虫被害の予防に取り組む。</p>				
「北茨城市環境美化運動の日」 市内一斉清掃参加者数		約 3,000 人	4,000 人	5,000 人
<p>現状：年 1 回実施している参加者数。 目標：参加者数の増加を目指す、ポイ捨てごみを減少させることを前提とする。</p>				
生活排水処理普及率		58.9%	70.1%	79.5%
<p>現状：生活排水未処理率が 41.1% である。 目標：北茨城市生活排水処理基本計画に掲げる目標値とし、処理普及率向上を目指す。</p>				
自然観察会及び 自然体験イベント参加者数		68 人	150 人	250 人
<p>※市主催又は市共催の自然観察会及び自然体験学習会。 現状：生涯学習課で、「ふるさと自然塾」が行われている。 目標：その他の自然観察会、自然体験イベント等を開催し、参加者数の増加を目指す。</p>				
河川水質環境基準達成率 (5 河川 7 地点の BOD)		100%	100%	100%
<p>現状：すべての地点で環境基準を達成している。 目標：環境基準値達成の継続を目指す。</p>				
水辺や生きものなど自然との ふれあいの場に対する満足度		21.5%	39.8%	58.0%
<p>※市民アンケートによる満足度（「満足」＋「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：市の環境の現状評価で、14 項目中、2 番目に満足度が低い環境要素。 目標：「どちらとも言えない」と回答した割合（36.5%）が現状値に移行することを目指す。</p>				

環境指標	現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
まちなみ景観の美しさに対する満足度	32.9%	53.0%	73.1%
※市民アンケートによる満足度（「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：市の環境の現状評価で、14 項目中、4 番目に満足度が低い環境要素。 目標：「どちらとも言えない」と回答した割合（40.2%）が現状値に移行することを目指す。			
まちの清潔さに対する満足度	36.5%	53.0%	69.4%
※市民アンケートによる満足度（「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：市の環境の現状評価で、14 項目中、5 番目に満足度が低い環境要素。 目標：「どちらとも言えない」と回答した割合（32.9%）が現状値に移行することを目指す。			

3 「つなげよう！エコドライブ」プロジェクト

3.1 目的

大気汚染の防止並びに地球温暖化対策を図るため、市民の多くが保有する自動車の利用について、エコドライブの普及啓発を図ります。

3.2 現状

- ・エコドライブについて具体的な取組内容があまり知られていないことがエコドライブを推進する上で支障となっています。
- ・エコドライブの推進として、啓発活動だけでは実践者の増加を図ることが難しいと考えられます。

3.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・より多くの市民や事業者がエコドライブを実践できるようにエコドライブセミナーの開催場所や開催形式を工夫します。
- ・エコカーについて情報提供を行い、自動車を購入する際のエコカー導入を推進します。

(2) 内容

- ・エコドライブセミナーの開催
- ・エコドライブセミナー受講者の中から市が認定講師を任命
- ・認定講師によるエコドライブミニセミナーの開催
- ・エコカー導入の推進

3.4 プロジェクトの効果

- ・エコドライブセミナーの受講者が増加し、エコドライブの実践者が増加します。
- ・認定講師が開催するエコドライブミニセミナーの受講者が増加し、エコドライブの実践者が増加します。
- ・大気汚染防止や地球温暖化対策について、普及啓発が図られます。

3.5 環境指標

環境指標	現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
エコドライブセミナー・ミニセミナー受講者数	—	500 人	1,000 人
現状：市ではエコドライブセミナーは実施していない。 目標：エコドライブセミナー及びミニセミナー受講者の増加を目指す。			
北茨城エコドライブ認定講師数	—	5 人	10 人
現状：現在北茨城エコドライブ認定講師制度は導入していない。 目標：上記制度を導入し、町内会や企業、PTAなどを対象にミニセミナーを開催する認定講師の増加を目指す。			
エコドライブ（省エネ運転）をしている市民の割合	41.9%	61.9%	81.9%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：環境に関する取組状況で、21 項目中、実施率の高い順から 10 番目。 目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合（40.0%）が現状値に移行することを目指す。			
車両使用時の環境負荷低減を行っている事業者の割合	28.1%	52.4%	76.6%
※事業者アンケートによる取組状況（「現在実施している」と回答した割合）を対象。 ただし、エコドライブだけでなく、エコカーの導入、マイカー通勤の自粛も含まれているため、今後、アンケート調査の際はエコドライブに限っての取組とする。 現状：環境問題改善に関する取組 20 項目中、実施率の高い順から 14 番目。 目標：「今後はしてみたい」と回答した割合（48.5%）が現状値に移行することを目指す。			

4 「ごみを減らそう！とことんリデュース」プロジェクト

4.1 目的

ごみの発生抑制と有効利用による排出抑制を推進し、循環型社会づくりの第一段階であるリデュースの徹底を図ります。

4.2 現状

- ・近年、本市のごみの総排出量が増加傾向にあり、リサイクル率も低下しています（p45 内の図、●本市の一般廃棄物総排出量 参照）。
- ・ごみ処理基本計画に掲げる削減目標値が未達成です（平成 25 年度）。
- ・ごみの発生抑制や有効利用の余地が考えられます。

＜市民の声＞ ～環境意識調査結果より～

- ・できるだけごみを減らす工夫を考えてください。（中学 2 年生）
- ・昔から、生ごみの堆肥化など環境を考えて実施してきた。（70 代女性）

4.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- ・プロジェクトを進めるにあたっては、3R {リデュース（排出抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源）} を基本とします。
- ・簡易包装の普及など、事業者と連携した取組を強化します。

(2) 内容

- ・マイバッグ持参や簡易包装の普及・啓発
- ・ごみの分別の徹底
- ・生ごみの堆肥化の普及・啓発
- ・廃食用油の回収及び再資源化（バイオディーゼル燃料など）
- ・落ち葉の堆肥化の普及・啓発
- ・剪定枝の回収及び再資源化（土壌改良材、生ごみ堆肥の基材、薪ストーブの燃料など）

4.4 プロジェクトの効果

- ・一人 1 日当たりのごみの排出量が毎年継続して減少します。
- ・これまで可燃ごみとして回収されてきた廃食用油が資源ごみとなり、リサイクル率が向上します。
- ・循環型社会形成に向けた初歩的な取組が浸透し、市民の環境意識が向上します。

4.5 環境指標

環境指標	現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
一人 1 日当たりのごみの排出量 (一般廃棄物)	1,022g	970g	920g
一人 1 日当たりのごみの排出量 (g) = {総ごみ排出量 (g) / 北茨城市ごみ処理区域内人口 (人)} / 365 (日) 現状：県平均 (平成 24 年度) の 1,002g を超えている。 目標：現状値に対し、中間目標は 5%、計画目標は 10%削減を目指す。			
リサイクル率 (一般廃棄物)	13.0%	16.1%	21.3%
リサイクル率 (%) = 資源物量 (t) / ごみ総搬出量 (t) × 100 現状：県平均 (平成 24 年度) 21.3% を下回っている。 目標：中間目標は、ごみ処理基本計画における平成 26 年度目標値を、計画目標は、平成 24 年度における県平均値を目指す。			
生ごみ処理容器等導入件数 (累計)	1166 台	1266 台	1366 台
現状：平成 4 年度から開始した処理容器及び処理機の購入補助により導入された件数。 目標：年間生ごみ処理容器等 20 台の導入を目指す。			
廃食用油の回収量	1,563kg	1,700kg	2,000kg
現状：廃食用油の回収は、学校給食センターでは民間の回収業者に引き渡しているが、一般家庭からの回収は行っていない。 目標：有効利用の方法を検討し、事業所及び家庭からの回収量の増加を目指す。			
買い物の際、マイバッグを持参している市民の割合	79.0%	86.1%	93.1%
※市民アンケートによる取組状況 (「いつも行っている」と回答した割合) を対象。 現状：環境に関する取組状況で、21 項目中、実施率の高い順から 2 番目。 目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合 (14.1%) が現状値に移行することを目指す。			
生ごみの堆肥化などでごみの減量化に努めている市民の割合	22.9%	49.4%	75.8%
※市民アンケートによる取組状況 (「いつも行っている」と回答した割合) を対象。 現状：環境に関する取組状況で、21 項目中、実施率の高い順から 13 番目。 目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合 (52.9%) が現状値に移行することを目指す。			

5 「再生可能エネルギー利用拡大」プロジェクト

5.1 目的

地域特性を活かした再生可能エネルギーの普及、省エネルギーやエネルギーマネジメントを促進し、CO₂の削減と持続可能なエネルギーの利用拡大を進めるとともに、省エネ・節水などを心がけ、エネルギーの有効利用と地球温暖化対策を推進します。

5.2 現状

- 北茨城市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）が策定され、市全体の温室効果ガス排出量の削減目標値が示されています。
- 省エネやCO₂の削減、災害時の電源の確保に効果的な再生可能エネルギーやコージェネレーションシステムなどによる自家発電の普及が進んでいません。
- 公共施設における再生可能エネルギーの導入が少ない状況です。
- 現在、市では、住宅用太陽光発電システムについて設置費の補助を行っています。

<市民の声> ～環境意識調査結果より～

- 太陽光発電等の補助金額を多くして、個人が導入しやすいようにしてほしい。（50代女性）
- 太陽光発電の導入しやすい施策、手だてなどを積極的に指導してくれると取り組みやすくなります。（70代女性）

5.3 プロジェクトの概要

(1) 方針

- プロジェクトを進めるにあたっては、北茨城市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に掲げる環境施策の推進を基本とします。
- 地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入を目指し、導入可能性について調査や検討を進めます。

(2) 内容

- 公共施設における再生可能エネルギー導入の推進
- 民間による風力発電や小型水力発電など再生可能エネルギーの導入に向けた調査への協力
- 住宅用環境配慮型設備※設置助成
 - ※：太陽光発電システム、CO₂冷媒ヒートポンプ給湯器、ハイブリッド給湯器、ガスエンジン給湯器、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム、太陽熱温水器 など

- エネルギーマネジメントシステム[※]導入の推進
 ※：エネルギーの効率的な利用、いわゆる省エネを図るシステムのこと。
 例えば、住宅向けの HEMS（ヘムス：住宅用エネルギー管理システムの略）は、家庭内の機器をつないで操作パネルを一元化し、エネルギーの使い方を「見える化」して省エネ行動を促すシステム。
- CO₂ 排出量の見える化活用の推進（環境家計簿、CO₂ 排出量チェックツール、環境ラベル）
- 省エネ・節水などに関する普及・啓発
 （緑のカーテンの設置、雨水や米のとぎ汁の有効利用、敷地内の緑化、自家用車の利用を控え公共交通機関や自転車の利用など）

5.4 プロジェクトの効果

- 公共施設における再生可能エネルギーの導入数が増加します。
- 太陽光発電システムをはじめ、住宅用の環境配慮型設備の導入数が増加します。
- 風力発電や小型水力発電など地域の特性を活かした再生可能エネルギーの導入に向けて、民間企業による調査や検討が進められます。
- CO₂ 排出量の見える化が市民や事業者に広まり、エネルギーの管理や効率的な利用が浸透します。
- 省エネや節水につながるさまざまな取組が活発になります。

5.5 環境指標

環境指標	現状 (平成 25 年度)	中間目標 (平成 31 年度)	計画目標 (平成 36 年度)
公共施設における再生可能エネルギー導入件数（累計）	3 件	5 件	7 件
現状：太陽光発電システムを学校等 3 施設に設置している。 目標：国の動向等を見極めながら、導入について検討していきたい。			
住宅用環境配慮型設備導入件数（累計）	20 件	300 件	550 件
現状：平成 25 年度から住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を開始している。 目標：年間 50 件の予算確保に努め、導入件数の増加を目指す。			
温室効果ガス排出量（市全体）	696.0 千 t-CO ₂ (H23)	591.5 千 t-CO ₂	
現状：最新のデータは平成 23 年度であるが、北茨城市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における基準年度は平成 17 年度の 593.5 千 t-CO ₂ である。 目標：国の平成 32 年中期目標までの削減率 3.8%の部門別削減率を基に算定。			

環境指標	現状 (平成25年度)	中間目標 (平成31年度)	計画目標 (平成36年度)
温室効果ガス排出量 (市の事務事業)	14,945.9 t-CO ₂	北茨城市地球温暖化対策 実行計画(事務事業編)による	
<p>現状：北茨城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)では、平成17年度を基準年度とし、毎年度、前年度比1%削減を目標としている。</p> <p>目標：北茨城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の見直しを行い、新たな削減目標を掲げ取り組む。</p>			
茨城県地球温暖化防止活動推進員の活動支援数	5回	6回	8回
<p>現状：11名が活動中(任期2年)。</p> <p>目標：地球温暖化防止に関する普及啓発活動を促進するため、市が積極的に推進員の活動を支援する。</p>			
暮らしの中で節電を心がけている市民の割合	64.6%	79.3%	94.0%
<p>※市民アンケートによる取組状況(「いつも行っている」と回答した割合)を対象。</p> <p>現状：環境に関する取組状況で、21項目中、実施率の高い順から5番目。</p> <p>目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合(29.4%)が現状値に移行することを目指す。</p>			
暮らしの中で節水を心がけている市民の割合	47.0%	67.1%	87.2%
<p>※市民アンケートによる取組状況(「いつも行っている」と回答した割合)を対象。</p> <p>現状：環境に関する取組状況で、21項目中、実施率の高い順から8番目。</p> <p>目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合(40.2%)が現状値に移行することを目指す。</p>			
緑のカーテンを作っている市民の割合	12.7%	37.4%	62.0%
<p>※市民アンケートによる取組状況(「いつも行っている」と回答した割合)を対象。</p> <p>現状：環境に関する取組状況で、21項目中、実施率の高い順から16番目。</p> <p>目標：「時々行っている」+「行っていないが、今後は行いたい」と回答した割合(49.3%)が現状値に移行することを目指す。</p>			